

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>. 理念に基づく運営</p> <p>1. 理念と共有</p>			
<p>1 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>ケア理念に『住み慣れた地域で、その人らしく「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」暮らせるよう本人の想いを大切にしていきます。』とかかげ、日々取り組んでいる。その人らしい人生を継続出来るようにと、理念を念頭に置き地域との交流をしたり、地域に貢献していくよう掲げている。</p>		
<p>2 理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>定期的な会議の場において理念に立ち返り日々のケアを確認しています。</p>		<p>新人スタッフに、日常場面の中で伝えていく必要がある。</p>
<p>3 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>毎月、家族に”はうすだより”を発行している。2ヶ月に一回運営推進会議を開催しています。施設内に理念を掲示して浸透を図っている。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>回覧板は利用者様とスタッフで隣の家にとどけます。日々の散歩や町内会行事で出会った人には、必ず挨拶するようにしています。近所の方々も挨拶を返してくださり、入居者様に声を掛けてくれることもあります。</p>		<p>近くの公園に行ったら挨拶を交わしたり、近所より採れたての野菜を頂いたりします。</p>
<p>5 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会主催の大掃除、花壇作り、神社の祭典、保育園、小学生の訪問、中学校の文化祭など様々な行事参加で交流は増えて来ています。</p>		<p>行事に地域のボランティアを要請していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>6 事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>施設長は町内会の会合に参加し認知症を理解して頂けるよう少しずつ積み上げている。</p>		<p>地域の高齢者の暮らしに活かせることはないか検討中。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全スタッフで項目ごとに検討し、話し合いを重ねながら自己評価にとりくんでいる。</p>		
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し事業所の運営状況や利用者様の生活状況等についての報告、意見交換を行い地域との連携強化を図っている。</p>		
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市で実施している会議に出席したり相談報告等で日常的に行政と連絡を取っており、ともにサービスの質向上に努めている。</p>		
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域の協議会議が主催する研修に参加しています。</p>		<p>必要なケースがないため他のスタッフは理解出来ない</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止の研修会に参加し、会議等で研修の勉強会をもうけて日々のケアの中で虐待の可能性がないか啓発に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
<p>12 契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、時間をとって事業所とホーム内のケアに関する考え方や取組の説明をしている。利用料金や重度化や看取りについての対応など詳しく説明し同意を得るようにしている。入居後も随時補足説明・相談に応じ理解が深まるようにしている。</p>		
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者様の日常の会話の中に意見や不満、苦情などを聞き取り、スタッフ間で共有し反映できるようにしている。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>金銭管理はお小遣い帳のコピーとレシートを利用料の請求書と一緒に送っています。月1回、“はうすだより”を発行し行事の報告や翌月の行事の予告等を行っています。また、個別に日々の健康状態や様子を適時に来訪時に報告しています。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関にご意見箱を設置しています。地域包括支援センターの担当者・電話番号等目につきやすい所に掲示している。家族との信頼関係に努め、話やすい雰囲気作りをしています。</p>		<p>家族等が、意見、不満、苦情等を気楽に伝えられるような機会づくりしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一度ユニット会議があり、スタッフからの意見など提案する機会はある。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者様の家族の状況変化や要望、行事や受診など、必要な時間帯に応じた勤務体制や勤務調整は早目の状況判断で対応しています。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>移動や離職の場合は、馴染みのスタッフが利用者様と居る時間を増やし、ゆつくり話を聴くことにより最小限に抑えています。</p>		
5. 人材の育成と支援			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>開催する研修会等を受講できるようにしたり、それらを会議等で発表してもらい報告書や資料は閲覧できるようにしている、また日々の現場で働きながら学ぶ機会も大切にし助言・アドバイスしています。</p>		
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市のグループホーム連絡協議会等参加しネットワーク作りや研修会を通し質の向上に努めている。また地域のホームのお祭りなど招待されたり、招待したりと交流の場作りをしています。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフの疲労感・ストレスの要因を把握し、単発的にも休息時間が確保できるよう気を配っている。またスタッフ同士で親睦もかねて飲み会をもうけ気分転換をはかっている。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>一つ一つ確実に納得し、理解して働けるように声掛けしています。また、スタッフみんなで一緒に学びながら楽しく働けるように努めています。</p>		
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談を行い生活の状態の把握に努め本人の不安等の理解につとめている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所に至るまでに面接等通じて入所にたいする不安や状況を把握する事により、信頼関係を築きスタッフが本人に受け入れられるように努めている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>家族の状況と本人の状態を把握する事により、ニーズを明確にし、相談に来られた家族にはこれまでの苦労や今までのサービスの利用状況やこれまでの経緯について、ゆっくり聞き、次の段階の相談へと繋げていきます。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>相談の本人や家族の思い・状況の確認し、早急の場合には地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>本人の思い苦しみ、不安、喜びなど知ることに努め、お互いに協働しながら、穏やかな生活が出来るような場面づくり、声掛けを行っている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の思い大事に、日々の暮らしの中での出来事、気付きなど共有し家族の方と一緒に思いで支えられるよう伝えている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>本人の日々の状態をこまめに報告、相談し関係が途切れることのないよう働きかけている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族に協力頂き行きつけの美容室に行ったり、時には外出し食事をしたり、出かけていく場面積極的に作るようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めて いる。	スタッフ間で、情報共有し、心身の状態、気分、感情 日々変化することもあるので注意して見守るようにして いる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを 必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつ きあいを大切にしている。	入院された場合にはお見舞いに行ったり、継続的な関 わり必要な家族とは連携を図っています。 退居された場合も、その後様子を聞くようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声掛け、把握に努めている、意思 疎通困難な方には、家族から情報えるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めてい る。	利用時の本人や家族などから聞き取る様にしていま す。また、日常会話の中で本人自身の語りや家族訪問 の時など把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状を総合的に把握するように努めている。	その人の生活リズムを把握すると共にその時の身体 的・精神的な変動を感じとり、有する現状の把握に努め ています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>36 チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>自分らしくあるために、本人や家族の要望を聞き、課題となる事を関係スタッフでカンファレンスを行いそれぞれのアイデアを大切に、介護計画に反映しています。</p>		
<p>37 現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>日々の変化に即して、遂行状況、効果等を評価するとともに、期間終了前でも、家族・本人の要望に応じて見直しを行っています。</p>		
<p>38 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の関わりの中から気づきやアイデアが生まれた時はケース記録に記録し、情報の共有を行っている。また、その情報をケアプランに反映させるように努めています。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>39 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>利用者本人・家族の希望に応じて、通院時の送迎や理髪店への付き添いなど、柔軟に支援しています。</p>		<p>事業所独自に実施しているサービスはないか本人、家族の暮らしを守るため多機能は活かしていきたい。</p>
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>40 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>運営推進委員会に民生員の方の協力頂いています。また、消防の方には年2回避難訓練時アドバイスを頂いたりしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>41 他サービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>町内会が開催する健康体操など介護保険以外のサービスを利用していきたいと思っている。</p>		
<p>42 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>成年後見制度が必要と思われる利用者様に地域包括支援センターに相談し利用出来るようにしている。</p>		
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>基本的には家族同行の受診となっているが不可能な時は職員が代行するようにしている。</p>		
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>家族、本人の希望する医療機関を利用しています。認知症の専門医に限らず本人や家族、スタッフのお話を熱心に聞いてくれて、適切な指示や助言をもらえています。</p>		
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所の看護師が週3回出勤し健康管理や医療面での相談・対応を行ってもらっている。いない時間帯は電話にて状況報告し、確実な連携を行っている。また、利用者様の通院されている医療機関との連携も密にとれる様関係作りをおこなっている。</p>		
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換しながら退院支援に結びつけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時に家族より、事前指定の同意書を頂いています。重度化や看取りの指針があり、日常生活で本人の思いや希望察知すると共に重度化になった場合には、本人・家族の希望を最大限尊重しながら、ホームの限界も十分理解頂いた上で、希望に沿いながら安全に過ごして頂けるよう、最善を尽くしたいと思います。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	グループホームだから出来る事、医療機関だから出来る事を柔軟に見極めて、本人の気持ちを大切にしつつ家族と話し合いながら利用者様が安心して終末期を過ごして頂けるよう取り組んでいけたらと思います。		
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入所時には本人の意向を聞き、家族と連携を図り住み慣れた生活空間に近づくよう環境配慮行いりロケーションダメージを最小限食い止めるよう努めます。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	スタッフ会議や日々の引継ぎの中で、プライバシーを損ねるものになっていないか、日常的に確認し合ったりして、さりげなく利用者様に関われるように配慮しています。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者様に合わせた声掛け、意志表示の困難な方には、表情を読み取り利用者様と過ごす時間を通して、希望、関心など見極め自分で決める場面をつくっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>買い物、散歩、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応しています。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人のこだわり、生活の継続を保つため、本人の希望する美容室の支援しています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニュー作りから、調理、片付けに至るまで食事の一連の流れを、利用者様の意志や気持を大切に進めています。</p>		
<p>55 本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの意志、好みを大切にしています。</p>		
<p>56 気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>自宅、他の施設でオムツ使用していた利用者様にも排泄パターン把握しトイレ誘導するようにしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの意向を大切にゆっくりとした気分で入浴出来るよう支援しています。		入浴好まない利用者様には声の掛け方など工夫し安心して入浴して頂いています。 個々の身体状況に応じ足浴し薬塗布しています。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動促し生活のリズムを整え就寝に向けてリズムが安定するよう工夫しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえ場面を作っています。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の協力を得てお金を持っている方もいます。受診時、買い物の時支払えるよう支援しています。		現金を管理することが出来る様に支援しています。
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	気分転換、ストレスの発散、五感刺激の機会として活用		利用者様は室内だけで過ごす、ストレスがたまりやすく、体調不良になりやすく、外出の場面を作ることで、利用者様 スタッフ両方気分転換ができています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>62 普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>一人ひとりの思いがかなえられるよう、利用者様、家族と相談し協力が得られるよう取り組んでいます。</p>		
<p>63 電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者様が希望された場合、電話連絡をとったりお手紙を送ったりなどの支援をしています。</p>		
<p>64 家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>いつでも面会出来るようになっており、居室でゆっくりされる方や、リビングで他の利用者様と共に過ごされる家族など様々であり、ゆっくりと過ごす工夫をしています。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援			
<p>65 身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の研修会の参加したスタッフより会議等で研修報告してもらいスタッフの共有確認を図り、それぞれのケアを振り返り身体拘束が行われていないかなど点検しています。</p>		
<p>66 鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>利用者様が外出しそうな様子が感じたら止めるのではなく、さりげなく声掛け一緒についていき、安全に配慮した自律な暮らし支援をしています。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>スタッフは利用者様と同じ空間で記録等行いながら、さりげなく全員の状態を把握するように努めています。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者様の状態を十分に把握しながら、危険防くため検討、取り決め工夫しています。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>日々ヒヤリハット記録して、スタッフ間で共有認識を図っている方が一事故が発生した時は、速やかに事故報告作成、原因、予防対策、検討、家族への説明報告を行っています。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>AEDの講習を受けているスタッフや、他ユニットと合同で消防署の協力を得て蘇生術の研修を受け緊急時に対応出来るようにしている、緊急対応のマニュアルを整理し周知徹底を図っています。</p>		<p>すべてのスタッフが同じような対応が出来ないので、定期的なシュミレーションを行ったり、今後も講習は必要である。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確保、火災通報装置・消火器の使い方などの訓練を利用者様交え、1階ユニットと一緒にしている。地域の方には避難訓練実施のポスターをポスティングし参加の呼びかけを行っています。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>利用者様一人一人に起こりうるリスクについては、状況把握し、スタッフ間で話し合い統一するとともにケアプランに反映させ、家族の方に具体的に説明し最善の対応策を一緒に考えています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>個々の病歴や留意事項を把握し、普段の状態、表情、食欲、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、変化の記録をつけ、状況に応じ医療機関へ繋いでいます。</p>	<p>毎日バイタルチェックをしています。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々に薬説明書をファイルに整理し、内容を把握した上でスタッフが薬セットしている。服薬時は、本人に手渡し確実に服用したか確認しています。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>日常の活動のあり方を見直し、食事のバランス、水分、運動と服薬以外で可能な限り自然排便できるよう個々の状態の把握に努めています。</p>	<p>自然排便排泄されない方は主治医と相談し定期的な排便促す事により体調管理保たれています。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>食後は歯磨きうがいを促し、介助が必要な方には介助を行い、就寝時に義歯洗浄剤につけ置き行っています。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの一日分の栄養摂取量、水分量など把握しながら、好みのもの献立に取り入れながら栄養のバランス配慮しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関しては、その時の情報を的確に収集し早期発見、早期対応出来るよう利用者様、家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として日々消毒を行っています。(床拭き、ドア取っ手、手すり等)		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は新鮮で安全な食材使用冷蔵残、冷凍庫の食材の残りの点検はこまめに行っています。		毎日、布きん・まな板を塩素につけ置きし、週一回冷蔵庫内はアルコールで拭き掃除、マグカップ・湯呑茶碗は週1回塩素でつけ置き洗浄しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	明るい雰囲気になるように、花鉢を置いたり、季節の切り花を生けたり、椅子を置き安心して靴を履きかえられるよう工夫をしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食器の洗う音、料理の匂い、心地よい音楽、鍋料理、桜もち、春には近くの神社にヨモギ採り、草もち作りをしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	階段の踊場に椅子、ソファーぬいぐるみなど置き一人で過したり、仲の良い利用者様同士でつるげるスペースを作っています。		利用者様関係、その時の状況に応じてスタッフ間で検討します。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、椅子以外にも仏壇など馴染みの物など生活スタイルに合わせています。		本人の意向確認、その人らしい居心地の良い居室づくりに取り組んでいます。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム内の各所に温度計・加湿器を設置し、換気・温度調整を行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	行動性維持するために、シルバーカー、車椅子など本人の状態に合わせています。		スタッフの気付きと日々の洞察力で危険の回避を行っていく
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人にとって「何がわからないのか」「どうしたら自分の力でやっていけるのか」追求工夫している。		混乱生じた場合はその都度スタッフと話し合い本人の不安材料を取り除いていきたい。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花、野菜を植えたり畑のスペース確保し、利用者様が日常的に楽しみ活動出来るよう環境作りしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ケア理念に『住み慣れた地域で、その人らしく「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」暮らせるよう本人の想いを大切にしていきます。』とかかげ、日々取り組んでいる。その人らしい人生を継続出来るようにと、理念を念頭に置き地域との交流をしたり、地域に貢献していくよう掲げている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	定期的な会議の場において理念に立ち返り日々のケアを確認しています。		新人スタッフに、日常場面の中で伝えていく必要がある。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	毎月、家族に”はうすだより”を発行している。2ヶ月に一回運営推進会議を開催しています。施設内に理念を掲示して浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	回覧板は利用者様とスタッフで隣の家にとどけます。日々の散歩や町内会行事で出会った人には、必ず挨拶するようにしています。近所の方々も挨拶を返してくださり、入居者様に声を掛けてくれることもあります。		近くの公園に行ったら挨拶を交わしたり、近所より採れたての野菜を頂いたりします。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会主催の大掃除、花壇作り、神社の祭典、保育園、小学生の訪問、中学校の文化祭など様々な行事参加で交流は増えて来ています。		行事に地域のボランティアを要請していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>6 事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>施設長は町内会の会合に参加し認知症を理解して頂けるよう少しずつ積み上げている。</p>		<p>地域の高齢者の暮らしに活かせることはないか検討中。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全スタッフで項目ごとに検討し、話し合いを重ねながら自己評価にとりくんでいる。</p>		
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し事業所の運営状況や利用者様の生活状況等についての報告、意見交換を行い地域との連携強化を図っている。</p>		
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市で実施している会議に出席したり相談報告等で日常的に行政と連絡を取っており、ともにサービスの質向上に努めている。</p>		
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域の協議会議が主催する研修に参加しています。</p>		<p>必要なケースがないため他のスタッフは理解出来ない。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止の研修会に参加し、会議等で研修の勉強会をもうけて日々のケアの中で虐待の可能性がないか啓発に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
<p>12 契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、時間をとって事業所とホーム内のケアに関する考え方や取組の説明をしている。利用料金や重度化や看取りについての対応など詳しく説明し同意を得るようにしている。入居後も随時補足説明・相談に応じ理解が深まるようにしている。</p>		
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者様の日常の会話の中に意見や不満、苦情などを聞き取り、スタッフ間で共有し反映できるようにしている。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>金銭管理はお小遣い帳のコピーとレシートを利用料の請求書と一緒に送っています。月1回、“はうすだより”を発行し行事の報告や翌月の行事の予告等をしています。また、個別に日々の健康状態や様子を適時に来訪時に報告しています。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関にご意見箱を設置しています。地域包括支援センターの担当者・電話番号等目につきやすい所に掲示している。家族との信頼関係に努め、話やすい雰囲気作りをしています。</p>		<p>家族等が、意見、不満、苦情等を気楽に伝えられるような機会づくりしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一度ユニット会議があり、スタッフからの意見など提案する機会はある。</p>		
<p>17</p> <p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者様の家族の状況変化や要望、行事や受診など、必要な時間帯に応じた勤務体制や勤務調整は早目の状況判断で対応しています。</p>		
<p>18</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>移動や離職の場合は、馴染みのスタッフが利用者様と居る時間を増やし、ゆつくり話を聴くことにより最小限に抑えています。</p>		
5. 人材の育成と支援			
<p>19</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>開催する研修会等を受講できるようにしたり、それらを会議等で発表してもらい報告書や資料は閲覧できるようにしている、また日々の現場で働きながら学ぶ機会も大切に助言・アドバイスしています。</p>		
<p>20</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市のグループホーム連絡協議会等参加しネットワーク作りや研修会を通し質の向上に努めている。また地域のホームのお祭りなど招待されたり、招待したりと交流の場作りをしています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフの疲労感・ストレスの要因を把握し、単発的にも休息時間が確保できるよう気を配っている。またスタッフ同士で親睦もかねて飲み会をもうけ気分転換をはかっている。		
22	向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	一つ一つ確実に納得し、理解して働けるように声掛けしています。また、スタッフみんなで一緒に学びながら楽しく働けるように努めています。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談を行い生活の状態の把握に努め本人の不安等の理解につとめている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所に至るまでに面接等通じて入所にたいする不安や状況を把握する事により、信頼関係を築きスタッフが本人に受け入れられるように努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の状況と本人の状態を把握する事により、ニーズを明確にし、相談に来られた家族にはこれまでの苦労やこれまでのサービスの利用状況やこれまでの経緯について、ゆっくり聞き、次の段階の相談へと繋げています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>26 馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>相談の本人や家族の思い・状況の確認し、早急の場合には地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応を行っている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
<p>27 本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>本人の思い苦しみ、不安、喜びなど知ることに努め、お互いに協働しながら、穏やかな生活が出来るような場面づくり、声掛けを行っている。</p>		
<p>28 本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の思い大事に、日々の暮らしの中での出来事、気付きなど共有し家族の方と一緒に思いで支えられるよう伝えている。</p>		
<p>29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>本人の日々の状態をこまめに報告、相談し関係が途切れることのないよう働きかけている。</p>		
<p>30 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族に協力頂き行きつけの美容室に行ったり、時には外出し食事をしたり、出かけていく場面積極的に作るようになっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めて いる。	スタッフ間で、情報共有し、心身の状態、気分、感情 日々変化することもあるので注意して見守るようにして いる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを 必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつ きあいを大切にしている。	入院された場合にはお見舞いに行ったり、継続的な関 わり必要な家族とは連携を図っています。 退居された場合も、その後様子を聞くようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声掛け、把握に努めている、意思 疎通困難な方には、家族から情報えるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めてい る。	利用時の本人や家族などから聞き取る様にしていま す。また、日常会話の中で本人自身の語りや家族訪問 の時など把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状を総合的に把握するように努めている。	その人の生活リズムを把握すると共にその時の身体 的・精神的な変動を感じとり、有する現状の把握に努め ています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	自分らしくあるために、本人や家族の要望を聞き、課題となる事に関係スタッフでカンファレンスを行いそれぞれのアイデアを大切に、介護計画に反映しています。		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の変化に即して、遂行状況、効果等を評価するとともに、期間終了前でも、家族・本人の要望に応じて見直しを行っています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の関わりの中から気づきやアイデアが生まれた時はケース記録に記録し、情報の共有を行っている。また、その情報をケアプランに反映させるように努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者本人・家族の希望に応じて、通院時の送迎や理髪店への付き添いなど、柔軟に支援しています。		事業所独自に実施しているサービスはないか本人、家族の暮らしを守るため多機能は活かしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進委員会に民生員の方の協力頂いています。また、消防の方には年2回避難訓練時アドバイスを頂いたりしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>41 他サービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>町内会が開催する健康体操など介護保険以外のサービスを利用していきたいと思っている。</p>		
<p>42 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>成年後見制度が必要と思われる利用者様に地域包括支援センターに相談し利用出来るようにしている。</p>		
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>基本的には家族同行の受診となっているが不可能な時は職員が代行するようにしている。</p>		
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>家族、本人の希望する医療機関を利用しています。認知症の専門医に限らず本人や家族、スタッフのお話を熱心に聞いてくれて、適切な指示や助言をもらえています。</p>		
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所の看護師が週3回出勤し健康管理や医療面での相談・対応を行ってもらっている。いない時間帯は電話にて状況報告し、確実な連携を行っている。また、利用者様の通院されている医療機関との連携も密にとれる様関係作りをおこなっている。</p>		
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換しながら退院支援に結びつけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時に家族より、事前指定の同意書を頂いています。重度化や看取りの指針があり、日常生活で本人の思いや希望察知すると共に重度化になった場合には、本人・家族の希望を最大限尊重しながら、ホームの限界も十分理解頂いた上で、希望に沿いながら安全に過ごして頂けるよう、最善を尽くしたいと思います。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	グループホームだから出来る事、医療機関だから出来る事を柔軟に見極めて、本人の気持ちを大切にしつつ家族と話し合いながら利用者様が安心して終末期を過ごして頂けるよう取り組んでいけたらと思います。		
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入所時には本人の意向を聞き、家族と連携を図り住み慣れた生活空間に近づくよう環境配慮行いリロケーションダメージを最小限食い止めるよう努めます。		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	スタッフ会議や日々の引継ぎの中で、プライバシーを損ねるものになっていないか、日常的に確認し合ったりして、さりげなく利用者様に関われるように配慮しています。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者様に合わせた声掛け、意志表示の困難な方には、表情を読み取り利用者様と過ごす時間を通して、希望、関心など見極め自分で決める場面をつくっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。</p>	<p>買い物、散歩、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応しています。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人のこだわり、生活の継続を保つため、本人の希望する美容室の支援しています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニュー作りから、調理、片付けに至るまで食事の一連の流れを、利用者様の意志や気持ちを大切にしています。</p>		
<p>55 本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの意志、好みを大切にしています。</p>		
<p>56 気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>自宅、他の施設でオムツ使用していた利用者様にも排泄パターン把握しトイレ誘導するようにしています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの意向を大切にゆっくりとした気分で入浴出来るよう支援しています。		入浴好まない利用者様には声の掛け方など工夫し安心して入浴して頂いています。 個々の身体状況に応じ足浴し薬塗布しています。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動促し生活のリズムを整え就寝に向けリズムが安定するよう工夫しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえ場面を作っています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の協力を得てお金を持っている方もいます。受診時、買い物の時支払えるよう支援しています。		現金を管理することが出来る様に支援しています。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	気分転換、ストレスの発散、五感刺激の機会として活用		利用者様は室内だけで過ごす、ストレスがたまりやすく、体調不良になりやすく、外出の場面を作ることで、利用者様 スタッフ両方気分転換ができています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりの思いがかなえられるよう、利用者様、家族と相談し協力が得られるよう取り組んでいます。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様が希望された場合、電話連絡をとったりお手紙を送ったりなどの支援をしています。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会出来るようになっており、居室でゆっくりされる方や、リビングで他の利用者様と共に過ごされる家族など様々であり、ゆっくりと過ごす工夫をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修会の参加したスタッフより会議等で研修報告してもらいスタッフの共有確認を図り、それぞれのケアを振り返り身体拘束が行われていないかなど点検しています。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者様が外出しそうな様子を感じたら止めるのではなく、さりげなく声掛け一緒についていき、安全に配慮した自律な暮らし支援をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフは利用者様と同じ空間で記録等行いながら、さりげなく全員の状態を把握するように努めています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者様の状態を十分に把握しながら、危険防ぐため検討、取り決め工夫しています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々ヒヤリハット記録して、スタッフ間で共有認識を図っている方が一事故が発生した時は、速やかに事故報告作成、原因、予防対策、検討、家族への説明報告を行っています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	AEDの講習を受けているスタッフや、他ユニットと合同で消防署の協力を得て蘇生術の研修を受け緊急時に対応出来るようにしている、緊急対応のマニュアルを整理し周知徹底を図っています。		すべてのスタッフが同じような対応が出来ないので、定期的なシュミレーションを行ったり、今後も講習は必要である。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確保、火災通報装置・消化器の使い方などの訓練を利用者様交え、1階ユニットと一緒にしている。地域の方には避難訓練実施のポスターをポスティングし参加の呼びかけを行っています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者様一人一人に起こりうるリスクについては、状況把握し、スタッフ間で話し合い統一するとともにケアプランに反映させ、家族の方に具体的に説明し最善の対応策を一緒に考えています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々の病歴や留意事項を把握し、普段の状態、表情、食欲、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、変化の記録をつけ、状況に応じ医療機関へ繋がっています。		毎日バイタルチェックをしています。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に薬説明書をファイルに整理し、内容を把握した上でスタッフが薬セットしている。服薬時は、本人に手渡し確実に服用したか確認しています。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日常の活動のあり方を見直し、食事のバランス、水分、運動と服薬以外で可能な限り自然排便できるよう個々の状態の把握に努めています。		自然排便排泄されない方は主治医と相談し定期的な排便促す事により体調管理保たれています。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後は歯磨きうがいを促し、介助が必要な方には介助を行い、就寝時に義歯洗浄剤につけ置き行っています。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの一日分の栄養摂取量、水分量など把握しながら、好みのもの献立に取り入れながら栄養のバランス配慮しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関しては、その時の情報を的確に収集し早期発見、早期対応出来るよう利用者様、家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として日々消毒を行っています。(床拭き、ドア取っ手、手すり等)		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は新鮮で安全な食材使用冷蔵残、冷凍庫の食材の残りの点検はこまめに行っています。		毎日、布きん・まな板を塩素につけ置きし、週一回冷蔵庫内はアルコールで拭き掃除、マグカップ・湯呑茶碗は週1回塩素でつけ置き洗浄しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	明るい雰囲気になるように、花鉢を置いたり、季節の切り花を生けたり、椅子を置き安心して靴を履きかえられるよう工夫をしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食器の洗う音、料理の匂い、心地よい音楽、鍋料理、桜もち、春には近くの神社にヨモギ採り、草もち作りをしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	階段の踊場に椅子、ソファーぬいぐるみなど置き一人で過したり、仲の良い利用者様同士でくつろげるスペースを作っています。		利用者様関係、その時の状況に応じてスタッフ間で検討します。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、椅子以外にも仏壇など馴染みの物など生活スタイルに合わせています。		本人の意向確認、その人らしい居心地の良い居室づくりに取り組んでいます。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム内の各所に温度計・加湿器を設置し、換気・温度調整を行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	行動性維持するために、シルバーカー、車椅子など本人の状態に合わせています。		スタッフの気付きと日々の洞察力で危険の回避を行っていく
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人にとって「何がわからないのか」「どうしたら自分の力でやっていけるのか」追求工夫している。		混乱生じた場合はその都度スタッフと話し合い本人の不安材料を取り除いていきたい。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花、野菜を植えたり畑のスペース確保し、利用者様が日常的に楽しみ活動出来るよう環境作りしています。		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 3 家族の2 / 3くらい 3 家族の1 / 3くらい 4 ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 たまに 4 ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2 / 3くらいが 3 職員の1 / 3くらいが 4 ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2 / 3くらいが 3 利用者の1 / 3くらいが 4 ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2 / 3くらいが 3 家族等の1 / 3くらいが 4 ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

天気が良い日は外に出る、一日一回はお日様の光をあびる。
食事は、四季折々の食材を使って利用者様の好みを聞いてメニューを作る時にも参加していただいています。
栄養士の資格を持ったスタッフが栄養管理しています。